

保育の必要度を歪ませる補助金格差是正についての陳情

(福祉健康委員会付託)

受理番号 第68号

受理年月日 平成23年11月24日

付託年月日 平成23年11月29日

陳情者
.

陳情原文 江戸川区は認可保育園(以下、認可園)の待機児童を解消する為に、認可園の定員を増やさず、独自の保育ママ制度で対応していますが、その待機児童解消の一翼を担っている認証保育所(以下、認証園)に対し、23区中唯一、独自の支援を行っていません。また、一度認可園に入園できると、条件を満たす限り小学校入学まで預ける事ができ、また妹弟も優先的に入園できる為、複数年に渡り公的サービスが幸運な世帯に提供されるという不均衡をもたらします。このような保育所の不足に対し、江戸川区は保育の必要度が高い方から入園を許可し、0歳児には保育ママ制度も用意しておりますが、未だに待機児童問題は解消されていません。そして、限られた財政の中で、すべての住民の要望を満たすのは不可能だとは理解しておりますが、それではその予算の配分は公平に公正に為されているのかと言いますと、時代の変化に取り残されているのではないかと思える部分もあります。なかでも、この「保育の必要度」という考え方は、今の実情に合っていないのではないかと私には思えるのです。その理由は、幼稚園入園が可能な年齢に達すると、保育園から幼稚園に転園する子供が少くないからです。そして、ご存知のように江戸川区では幼稚園に手厚く補助金を支出し、子育てのしやすい街として、全国にその名を知らしめています。しかし、「母親が子育てしやすい街」と言えば聞こえは良いですが、実情は「母親が子育てしなければならない街」であるとも言えます。このような時代遅れの補助金政策によって、区民の納税額が減り、補助金は増え続けるような政策は、真っ先に改めるべき内容だと思います。そして、この幼稚園への補助金が先ほどの「保育の必要度」とどのような関係があるのかと申しますと、保育園入園時には「保育の必要度」が高いと認められ認可園への入園を許可された家庭の子供が幼稚園に進学するという事は、「保育の必要度」が本当に高かったのか疑問であるということになるかと思えます。入園当時は高く、転園時には低くなったのかも知れません。ただ、現状ではそのような家庭の子供も保育が必要である以上は在園が可能で、さらに弟や妹が優先的に入れる仕組みとなっております。根本的には保護者のモラルの問題なのかも知れませんが、この経済状況の中、このような偏った補助金政策の下で、保育園から幼稚園へ転園することを非難することはできません。

また、「保育の必要度」についても、数年先まで予測することは困難でありますし、予測できたとしても、それを考慮すべきとは思えません。そこで、認可園に在
(裏面に続く)

園しながら幼稚園に転園する場合は、認可園に在園した期間分は幼稚園の補助を停止したらどうかと考えました。また、幼稚園に入園できる学齢に達した園児に対しては、幼稚園と同様の補助金を支出してはどうかと考えました。このような政策によって、認可園から認証園への転園が起きるかも知れませんが、そのような転園は区の財政支出を減らし望ましい結果と言えます。

つきましては、保育の必要度を歪ませる補助金格差是正について対処して頂きたく、下記のとおり陳情いたします。

記

- 1 認定こども園の数が区立幼稚園の数を上回るまでに、幼稚園と保育園に対する時間単位の保育料格差が無くなるように補助金を整理して欲しい。
- 2 第二子減額の制度を幼稚園、認可保育園、認証保育園、認定こども園、保育ママ等で、同率の減額となるように各私立園と相談などしながら再構築して欲しい。